

湯たびの会（白布温泉・東屋）

今回の湯たびの会の 2 日目は一日目の“ゆもとや”を出発して白布温泉の東屋行きの行程です。東屋へは去年の 4 月に行っているので今回が 2 回目。秘湯の会の 10 個のスタンプを貰って招待されて行くことになり楽しみにしていました。

停電で列車が遅れ、3 時過ぎに米沢に到着して、そこから送迎バスで約 30 分かけて西吾妻連峰の中腹の地上約 900 メートルに位置する東屋に到着した。



到着後少し休憩をして 4 時頃から露天風呂に入った。露天風呂は少し熱めで源泉かけ流しで非常に良かった。内風呂にある“打たせ湯”(滝風呂)はこの温泉の名物のようなもので前回の時にも好評だったので皆さん早速利用された様です。地上 4～5 メートルの高さから温泉湯が大量に勢いよく落ちてくるので非常に気持ちが良くて背中の良いマッサージにもなる。このような流れ湯が強・中・弱と 3 本あり良く考えて作られています。



夕食は御馳走が出ました。前日は食べきれない程の大量の食事でしたが今晚は少し少ない目で私でも完食するほどの丁度良い量でした。特に米沢牛が美味でした。

この日は皆さん最近では珍しくお酒が相当進んでいました。食事を楽しんだ後は何時もの様に一部屋に集まって歓談や次回の打ち合わせをしましたが皆さんお疲れで議論も余り進まず、温泉にも入らずに9時前に寝てしまいました。



この様に年寄りには夜には弱いですが朝には強く、早い人は3時頃から遅い人でも6時から再び露天風呂と内湯や打たせ湯に行き温泉を堪能していました。

朝食を8時に終えて10時には送迎バスで米沢駅へ出発。通常東屋から米沢駅までは約30分かかりますが、東屋は送迎バスが30分で米沢に着くことは確約出来ないとのことだったので余裕を見て11時38分の“つばさ138号”の指定席を予約していました。



ところが送迎車は予定通り約 30 分で 10 時 30 分に米沢駅に着きました。そこで一電車早い 10 時 37 分発の“つばさ 136 号”に乗る事にしました。しかし此の電車は非常に混んでおり乗車すれば多分立ち席になるでしょうとの事でしたが、立ち席覚悟で“つばさ 136 号”に乗る事にしました。ところが電車が 5 分程遅れるとの放送があったので、“つばさ 136 号”の指定席を取ることにトライして緑の窓口に行きました。(山形新幹線は全席座席指定で指定席券の無い人は原則立ち席となる)

窓口には既に 4 人程順番を待っていましたが 10 時 40 分になっても順番が来ずイライラしてもう諦めようかと思っていたところ緑の窓口の女性従業員が私達の表情を見て急ぎと思い対応中の客を待たせて(通り越して)私達の要望を聞いてくれました。6 枚の座席指定券を直ちにコンピューターに入力して、混んでほとんど空きのない電車から空席を捜して座席指定の変更をしてくれました。僅か一分位でした。出来上ったのは 10 時 42 分頃。此の女性の処理の早いこと。本当に神業でした。その結果新しい指定席券を持ってホームに出た時には電車はすでに入っており発車十秒程前でした。危うくセーフでした。此の優秀な女性に感謝！感謝！です。

私の米沢・白府温泉東屋の印象は、露天風呂・打たせ湯・米沢牛・JR 緑の窓口のスーパー女性でした。

米沢で一電車速い新幹線に乗れたので福島には一時間早く 11 時 15 分頃に着きました。観光案内所に行って昼食に良い所と観光地等を聞きましたが、皆さんお疲れで観光はやめ昼食も軽く食べられるカフェーの様な所に行きました。流石そこには若者が多くて我々には場違いのような気がしましたが、そこで軽食を食べて早目の新幹線に乗り大宮・新宿経由で新百合ヶ丘には 3 時半頃に着きました。



今後の教訓；①無理なスケジュールはたてない。余裕を持った旅にする。

②二泊した場合は二泊目には疲れが出るのでこの点を考慮する。

③温泉では特に冬場の露天風呂は要注意、入浴は単独ではなく複数人で。

今回は天候に恵まれて非常に温かく、一日目は少し温めの温泉、二日目は熱めの温泉と体にバランスよく温泉に入れ、最終日は少し早めに切り上げて帰宅し快適な旅となりました。

次回は 2024 年 2 月 21 日(水)～22 日(木)箱根の塔ノ沢温泉、福住楼